

# 小中一貫教育校化について

## 1 小中一貫教育校とは

小学校と中学校が目指す児童生徒像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育をいう。

### 小中一貫教育校で行われている交流例

- ・学習面や生活面のルールの統一
- ・学校行事等の合同実施や相互参加
- ・中学校教員による小学校での授業
- ・授業での交流
- ・中学校の部活動の見学 など



9年間を見通した指導

## 2 小中一貫教育校化のメリット

これまで小中一貫教育の取組みを行ってきた自治体において、「学習面」と「生徒指導面」の両方のメリットが報告されている。（文部科学省 小中一貫教育についての実態調査より）

### (1) 学習上のメリット

- ①全国学力・学習状況調査等の学力調査の結果の向上
- ②児童生徒の学習意欲の向上
- ③小学校・中学校の教職員間で互いの良さを取り入れる意識の向上
- ④指導内容の系統性に関する教職員の理解の向上

### (2) 生徒指導上のメリット

- ①「中1ギャップ」の解消
- ②いじめや不登校、暴力行為の減少
- ③生活規律の定着
- ④小学校・中学校の教職員間で協力して指導にあたる意識の向上

## 3 小中一貫教育校における予想される取組例

小中一貫教育に取り組んでいる自治体は、平成29年3月に文部科学省が行った調査（小中一貫教育の導入状況調査の結果）によると、義務教育学校が48校、小中一貫型小学校・中学校が253校であり、今後も増加することが予想されている。

### (1) 総合的な学習での小中交流

通学区域における多様な文化・地理・歴史・産業等の教育資源を総合的に学習する。

### (2) 英語教育の導入

小学校低学年からアルファベットや単語指導を行う。

### (3) 家庭学習について共通理解をもつ

「家庭学習については早い段階での習慣化が必要」ということを考慮し、小中共通で家庭学習を重視して、その指導に連携して取り組む。

#### (4) 学習規律・生活規律の徹底

以下のような項目について、小中でルールを統一する。

##### ①授業前後

教室移動の際のルール、着替え、チャイム着席・机上の準備、授業開始・終了時の挨拶

##### ②授業中

正しい姿勢、起立・着席の仕方、やむを得ず離席する場合のルール、忘れ物の申告のタイミング・方法、話の聴き方、挙手の方法、級友の名前の呼び方、指名されたときの返事、机上の用具の置き方、ノートの取り方、私語の禁止

##### ③持ち物

机上に置いてよい持ち物、使用を許可する文房具、学校に持参してよいもの、用具への記名

##### ④教育環境整備など

掲示物の内容・掲示場所、清掃の方法・徹底の度合い、ロッカーや机の引き出しの使い方、机のフックの使い方、靴箱の使い方、傘の立て方、給食の支度、片付け

#### (5) 小学校児童の部活動への参加

小中一貫教育を行う学校では、小学校高学年から中学校の部活動への参加が行われているところがある。また、小学校の陸上競技大会前に陸上部の生徒が小学生に走り方などを教えたり、球技大会前にサッカー部やバスケットボール部の生徒が小学生に教えたりする。

#### (6) 教科担任制の実施

中学校で採用されている教科担任制への円滑な接続を図るために、小学5・6年生を中心に教科担任制を実施する。

#### (7) 乗り入れ授業の実施

中学校へ向けて円滑な授業展開を目的とし、中学校教員が小学生に指導を行う。

#### (8) 小中学校の行事交流

6年生が中学校の合唱コンクールや生徒総会などの学校行事で交流する。

#### (9) 合同避難訓練を実施

小学校・中学校が同じ日に避難訓練を実施し、保護者への引き渡しまで行う。

### 4 小中一貫校のデメリット

小中一貫校は9年間、連続した指導を行うため、以下のようなデメリットが考えられる。

#### (1) 児童生徒にとってのデメリット

- ①小学校においては、高学年がリーダーシップを発揮し、活躍するが、小中一貫校においては、高学年の児童がリーダーシップを発揮する場が少なくなり、自主性や積極性が育ちにくい。
- ②中学1年生において、小学生気分が抜けずに過ごすと、中学2年生になって適応に問題を生じる場合がある。
- ③小中合同の活動時に、小学生に合わせた表現や動きになり、中学生に必要な判断力や自主性を養う場が少なくなる。

#### (2) 教職員のデメリット

- ①小学校と中学校の教師が打合せする時間や合同の研修などが数多く必要になる。
- ②業務量が増大する可能性があり、教職員の負担感・多忙感の解消ができない。